

パイプオルガンという楽器

パイプオルガンの大きな特徴として

「同じ仕様のものは2つない」ということが挙げられます。

各時代、各地方で、キリスト教会の典礼の要請を受け、
経済力に左右されながら、数百年にわたって様々な楽器が生み出されて来ました。

上野学園 石橋メモリアルホールのオルガンは、

20世紀中頃、極端にロマン派化し巨大になってしまったオルガンへの反動で、

「バッハの明晰なポリフォニーを取り戻そう」との掛け声のもと作り出された、

“ネオ・バロック様式”による楽器です。

—— 小林英之 ——

《リサイタルでの演奏曲》

ヴァルター・クラフト：死の舞踏トッカータ
Walter Kraft (1905-1977): Totentanz-Toccata (c.1974)

ヴァルター・クラフト：ファンタジー「怒りの日」
Walter Kraft (1905-1977): Fantasia "Dies Irae" (1968)

エルネスト・ペッピング：BACHによる3つのフーガ
Ernest Pepping (1901-1981): 3 Fugen über BACH (1943)

J.S. バッハ/Johann Sebastian Bach (1685-1750) :

前奏曲 変ホ長調 BWV552,1
Praeludium Es-Dur

コラール「永遠の父なる神よ」BWV669
Choral "Kyrie, Gott Vater in Ewigkeit"

コラール「すべての世の慰めなるキリストよ」BWV670
Choral "Christe, aller Welt Trost"

コラール「聖霊なる神よ」BWV671
Choral "Kyrie, Gott heiliger Geist"

フーガ 変ホ長調 BWV552, 2
Fuga Es-Dur

上野学園 石橋メモリアルホールのパイプオルガンについて

ドイツ・クライス社製作。3段手鍵盤とペダル、ストップ36、パイプ2278本。1974年設置、2007年解体、2010年再設置。
このパイプオルガンは、20世紀後半の「ネオ・バロック様式」で製作され、豊富な倍音管、やや鋭めの整音を特徴とし、バッハに代表されるバロック期の音楽や20世紀のオルガン音楽の明晰なポリフォニーの表現が得意です。



小林 英之

Hideyuki Kobayashi,
Organ

東京藝術大学音楽学部卒業、同大学院修了。ドイツ、フランクフルト音楽大学卒業。各地での独奏会のほか、オーケストラでオルガンを担当し、神奈川フィル、アンサンブル金沢、東京シティフィル、N響、新日フィル、東京都響の定期演奏会には、ソリストとして出演。その他、合唱団との共演やNHKテレビ「名曲アルバム」、NHK-FM「朝のバロック」等に出演。東京芸術劇場でオルガン関連事業の企画を担当するほか、中学生、高校生あるいは一般愛好家を対象としたオルガンに関する啓発活動も積極的に行っている。東京芸術劇場オルガニスト。上野学園大学教授。

上野学園 石橋メモリアルホール

《交通アクセス》

◎JR各線「上野駅」入谷改札より入谷口から徒歩8分 東京メトロ・日比谷線/銀座線

「上野駅」1番出口より徒歩8分

◎台東区循環バス<東西めぐりん(浅草方面)>

「上野駅・上野公園(東京文化会館前)」より乗車、「上野学園」にて降車、徒歩0分、
行きのみ。(めぐりん:所要時間10分、15分間隔で運行)

